令和５年度　第７号

学校だより

令和５年 10 月 31 日
横浜市立二谷小学校
校長　　矢島　孝幸

「大切なかかわり」

学校長　矢島　孝幸

１０月に入っても暑い毎日が続いておりましたが、ようやく過ごしやすい気候となりました。教室を回っていると、快適に学習している姿が見られます。先日の運動会では、温かなご声援をいただき感謝申し上げます。数年ぶりに入場制限をせずに開催いたしました。皆様のご理解とご協力のおかげで、子どもたちは練習の成果を存分に発揮することができました。ありがとうございます。

過日、高学年リレーの選手（５・６年生）が休み時間に自主練習をしていました。チーム関係なく、リレー選手同士がバトンパスのタイミングを合わせる確認をしたり、アドバイスしあったりしていました。そして、６年生が練習する姿を見て、５年生も少しずつ加わってきました。選手たちは、自ら課題を見出し、課題解決に向けた活動（自主練）に取り組み、そして、自分たちが目指す姿の実現を図ろうとしていました。まさに**『主体的』『協働的』**な学びの姿を高学年が体現していました。子どもたちは指導されたことを確実に行うことはできます。簡単に言えば「言われたことをこなす」ということです。ただ、これではこれからの社会を生き抜く真の力は育まれないと私は思います。自ら考え、主体的に活動することで、今の子どもたちにとって必要な**『力』（生きる力）**が身に付きます。私たち教師は、どうしても早急かつ安全な結果を欲してしまうため、「転ばぬ先の杖」ではありませんが、必要以上にレールをひいてしまう傾向があります。ひかれたレールの上を子どもたちが進んでいると安心できるからです。ただ、そこに安心は確保されますが、子どもの「主体性」や「創造力」は生まれません。子どもたちに真の力を育むためには、**『任せる』**ことが必要です。言い方を変えると**『信じる』**ということかもしれません。ただ、これは傍観しているだけというわけではありません。

先ほどのリレー選手の話に戻します。子どもたちの自主的・協働的な活動を**『深い学び』（子どもの力）**にするために必要なことが、的確な**教師の『かかわり』**です。子どもたちの姿を見て、教師が適切かつ適時的にかかわることで、子どもは、「思考力」「判断力」「表現力」「課題解決力」「コミュニケーション力」等、様々な力を獲得します。この一つ一つの積み重ねが、個の成長につながります。『誰ひとり取り残さない学校』を実現するためにも、私たちは個を丁寧に見つめ、適切かつ適時的なかかわりを大切にしていきたいと思います。主体的に活動できる力をもった二谷小の子どもたちを大きく成長させることができるよう、個に応じたかかわりを大切していきます。一人一人の健やかな成長に向け、子どもたちとかかわります。これからも皆様のご支援とご協力をお願いいたします。